

龍郷町教育委員会埋蔵文化財発掘調査報告書（3）

主要地方道龍郷奄美空港線改良に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

ウフタⅣ遺跡
（大島郡龍郷町）

2005年3月

鹿児島県龍郷町教育委員会

序 文

ウフタⅣ遺跡は、大島郡龍郷町に所在し、主要地方道龍郷奄美空港線の道路改良工事に伴い、平成16年度に調査を行いました。

本遺跡は、縄文時代から弥生時代にかけての遺跡で、今回の調査は平成7年度実施のウフタⅢ遺跡以来の調査となります。調査は駐車場工事部分だけではありませんが、前回の調査では出土しなかった砂丘形成以前の土層から土器や石器が集石遺構と併に確認されております。これらは、今後の地域の歴史を考えるうえで重要な資料となることでしょう。

本報告書が十分に活用され、地域の歴史を解明する一助となることを期待しております。

最後になりましたが、調査にご協力をいただいた大島支庁土木課をはじめ、発掘調査に従事された地域の方々に対し、厚く御礼申し上げます。

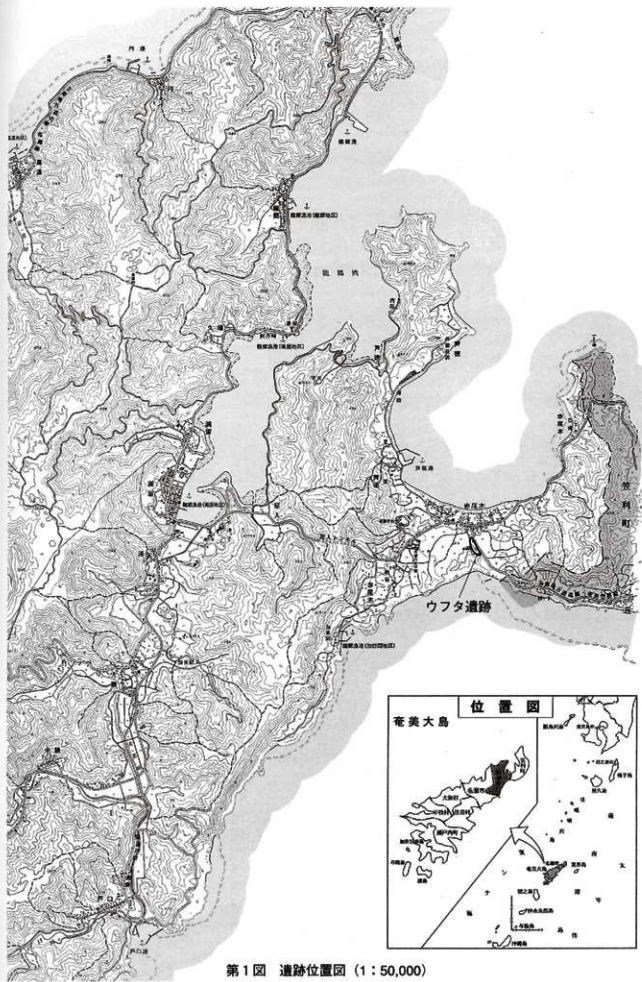
平成17年3月

鹿児島県大島郡龍郷町

教育長 宏洲 弘

報 告 書 抄 録

ふりがな	うふたIVいせき							
書名	ウフタIV遺跡							
副書名	主要地方道龍郷奄美空港線の改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次	1							
シリーズ名	龍郷町教育委員会埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ番号	3							
編集者名	寺原徹・松村智行							
編集機関	龍郷町教育委員会							
所在地	〒894-0192 鹿児島県大島郡龍郷町浦110 ℓx0997-62-3111							
発行年月日	2005年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ウフタIV いせき 遺跡	かごしまけん 鹿児島県 おおしまぐん たつごうちよう 大島郡 龍郷町 あそおび 赤尾木ウフタ	5275	88-1	28° 24' 32"	129° 37' 52"	2004.7.1 ～ 2004.7.30	130㎡	県道改良事業に伴う緊急発掘調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
ウフタIV いせき 遺跡	散布地	縄文時代	集石1基	条痕文式土器、磨石 叩石				



第1図 遺跡位置図 (1:50,000)

例 言

- 1 本報告書は、平成16年度に龍郷町教育委員会が実施した主要地方道龍郷奄美空港線の道路改良工事に伴うウフタⅣ遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2 本遺跡は、鹿児島県大島郡龍郷町赤尾木宇ウフタに所在する。
- 3 発掘調査は、鹿児島県大島支庁土木課から鹿児島県大島郡龍郷町教育委員会が受託し調査の任にあたった。
- 4 発掘調査事業と報告書作成事業は平成16年度に実施した。
- 5 遺物番号は通し番号とし、本文・挿図・図版の番号は一致する。
- 6 本書に掲載した遺構・遺物の縮尺はそれぞれの挿図内に掲示してある。
- 7 本書に用いたレベル数値は、全て海拔高である。
- 8 現地調査に関する実測および写真撮影は、松村智行が行った。
- 9 整理作業に関する遺物の実測、遺構・遺物のトレース等は主として県立埋蔵文化財センター文化財研究員寺原徹・松村が行った。
- 10 石器等の石材同定は、県立埋蔵文化財センター文化財主事宮田栄二が行った。
- 11 遺物の写真撮影は、県立埋蔵文化財センター文化財研究員横手浩二郎が行った。
- 12 本文の執筆・編集は、寺原・松村が行った。
- 13 遺物は、鹿児島県大島郡龍郷町教育委員会で保管し、展示・活用する予定である。

目 次

第Ⅰ章 発掘調査の経過	1
第1節 調査にいたるまでの経過	1
第2節 調査の組織	1
第3節 調査の経過	2
第Ⅱ章 遺跡の位置と環境	3
第1節 遺跡の位置及び地理的環境	3
第2節 遺跡周辺の史的環境	3
第3節 周辺遺跡図	4
第4節 周辺遺跡地名表	5
第Ⅲ章 発掘調査の概要	6
第1節 発掘調査の方法	6
第2節 遺跡の層序	6
第Ⅳ章 発掘調査の成果	10
第1節 縄文時代（Ⅵ層）の調査	10
1 遺構	10
2 出土遺物	12
3 出土遺物観察表	14
第Ⅴ章 調査のまとめ	15
写真図版	17

挿 図 目 次

第1図	遺跡位置図	
第2図	周辺遺跡位置図	4
第3図	トレンチ配置図及び調査区	7
第4図	土層断面位置図	8
第5図	土層断面	9
第6図	縄文時代集石遺構位置図	10
第7図	縄文時代集石遺構実測図	11
第8図	縄文時代・Ⅲ層・時期不詳出土遺物	13

表 目 次

1	縄文時代出土遺物（土器）	14
2	縄文時代出土遺物（石器）	14
3	Ⅲ層出土遺物	14
4	時期不詳遺物	14

図 版 目 次

1	遺跡遠景，近景	17
2	1トレンチ発掘調査風景，1トレンチ西端Ⅲ層遺物出土状況	18
3	1トレンチ，Ⅲ層・Ⅳ層遺物出土状況・1トレンチⅥ層調査風景	19
4	3トレンチ，1トレンチ拡張区	20
5	遺物出土状況，集石	21
6	1トレンチ調査拡張区Ⅵ層遺物出土状況 1トレンチ調査拡張区Ⅵ層チャート出土状況	22
7	チャート集中箇所，条痕文式土器出土状況	23
8	集石遺構検出状況，集石遺構	24
9	縄文時代・Ⅲ層・時期不詳出土遺物	25

第I章 発掘調査の経過

第1節 調査に至るまでの経過

大島郡龍郷町赤尾木から奄美空港へと続く主要地方道龍郷奄美空港線は、その利便性を向上させるために何度も改良工事が実施されてきている。平成15年には「奄美群島日本復帰50周年行事」のために天皇陛下が奄美大島に御来訪されている。その御来訪にあわせて周知の遺跡「ウフタ遺跡」「半川遺跡」に接する主要地方道龍郷奄美空港線の拡張工事がなされた。工事により半川遺跡内の遺物包含層が法面に露出したので、龍郷町教育委員会事務局と県文化財課、大島支庁土木課の間で今後の処置について協議が行われた。

その結果、ウフタ遺跡内では「ふれあいとゆとりの道づくり工事（赤尾木工区）」が計画されており、全面工着手前に遺物包含層の有無や詳細を調べる確認調査を実施することになった。確認調査は、龍郷町教育委員会が調査主体となり平成16年7月1日から7月30日まで実施した。整理作業・報告書作成業務も平成16年度に実施した。

第2節 調査の組織

平成16年度（本調査）

事業主体	鹿児島県大島支庁土木課
調査主体	大島郡龍郷町教育委員会事務局
企画・調整	鹿児島県教育庁文化財課
調査責任者	大島郡龍郷町教育委員会事務局 教 育 長 宏洲 弘
調査企画担当者	大島郡龍郷町教育委員会事務局 事 務 局 長 宮口 孝廣 次 長 森 悦賢
発掘調査担当者	大島郡龍郷町教育委員会事務局 主 査 松村 智行
調査事務担当者	大島郡龍郷町教育委員会事務局 主幹兼係長 竹山 志お子

平成16年度（整理作業・報告書作成）

事業主体	鹿児島県大島支庁土木課
作成主体	大島郡龍郷町教育委員会事務局
企画・調整	鹿児島県教育庁文化財課
作成責任者	大島郡龍郷町教育委員会事務局 教 育 長 宏洲 弘
作成企画担当者	大島郡龍郷町教育委員会事務局 事 務 局 長 宮口 孝廣 次 長 森 悦賢
作成担当者	大島郡龍郷町教育委員会事務局 主 査 松村 智行
作成事務担当者	大島郡龍郷町教育委員会事務局 主幹兼係長 竹山 志お子（平成16年12月まで） 主幹兼係長 村田 美鈴（平成17年1月から）

〈発掘調査作業員〉

平成16年度（本調査）

大山 輝雄, 野口 正樹, 松村 好, 松村 義弘, 三原 一弘, 井 茂俊, 大山 カ
ツ子, 川畑 弘子, 瀧 ミツ子, 竹山 節子, 田畑 美和子, 野口 せつ子, 松村
智賀子, 松村 ツギ子

平成16年度（整理事業員）

栄 香織, 南 美和子

辻田 由美, 中村 ひろみ（調査支援）

なお、発掘調査から報告書作成にかけて多くの方々よりご指導・ご教示を賜った。記して
感謝したい。

青崎和憲 池畑耕一 牛ノ濱修 甲元真之 杉井健 立神次郎 堂込秀人 中原一成 中
山清美 長野真一 東和幸 松本信光 宮田栄二 元田信有 森田郁朗 八木澤一郎

第3節 調査の経過

調査の経過については、日誌抄をもってこれにあてる。

7月1週（7月1日～2日）

調査内容・方法等を作業員へ説明。プレハブ設置。1トレンチ、2トレンチ設定後表土剥
ぎ。1トレンチ、2トレンチ掘り下げ。2トレンチ完掘。

7月2週（7月5日～9日）

1トレンチⅢ層遺物出土状況実測。3トレンチ設定後表土剥ぎ。3トレンチ掘り下げ。

7月3週（7月12日～16日）

3トレンチ北側拡張部設定後表土剥ぎ。1トレンチ3トレンチ掘り下げ。1トレンチⅥ層
遺物出土状況実測。甲元真之氏・杉井健氏（熊本大学）、中山清美氏（笠利町教育委員会）
来跡。1トレンチ南東側砂丘面（工事法面部）表土剥ぎ。3トレンチ完掘。

7月4週（7月19日～23日）

1トレンチ南東側拡張部掘り下げ。2トレンチ南壁土層断面図作成。川畑氏ほか1名（大
島支庁土木課）来跡。

7月5週（7月26日～30日）

1トレンチ南東側拡張部Ⅵ層遺物出土状況写真撮影，Ⅵ層遺物出土状況実測。集石遺構検
出，写真撮影及び実測。発掘器材等搬出。大島支庁土木課へ遺跡を引き渡す。調査終了。

第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

第1節 遺跡の位置及び地理的環境

本遺跡の所在する龍郷町は、鹿児島県南部から台湾にかけて弧状に連なる南西諸島の中の奄美大島北部にある町である。

奄美大島は、沖縄本島、佐渡島に次ぐ大きさの島で、一般的に地勢は急峻である。島の南部は、かつて山地が沈降し、汀線はリアス式海岸を形成している。一方で島の北西部は隆起傾向を示し、特に笠利半島の東側太平洋沿岸部はおだやかな海岸段丘が続いている。

龍郷町は、西南側は南北に急峻な長雲山脈と十五山系が連なり名瀬市と隣接し、東側は赤尾木地峡を経て同じく笠利町に隣接している。また東南部は太平洋に面し、西北部では東シナ海に接している。主な河川は、秋名川・嘉渡川が北流し東シナ海に、大美川が太平洋に流入している。気候は、亜熱帯海洋性気候で四季を通じて温暖多湿で、台風の常襲地帯でもあり、季節風は夏と冬に著しくなる。

本遺跡は、龍郷町赤尾木ウフタに所在する。本遺跡が所在する笠利半島の基部は、太平洋から吹き上げられて形成された標高10～20m程の砂丘が連続しており、沿岸は珊瑚礁が発達していて、イノー（礁湖）が形成され古代から現代まで魚や貝類が豊富な天然の漁場として利用されてきている。本遺跡は、隕石の発見地とされる「奄美クレーター」に近い南北約800mの赤尾木地峡南部の砂丘に位置し、遺跡東側を主要地方道龍郷奄美空港線が隣接して北西から南東方向へ走っている。

第2節 遺跡周辺の史的環境

本遺跡の所在する笠利半島の基部から半島東側沿岸部は、砂丘上に多くの遺跡が所在している。本遺跡と関連する遺跡を中心に紹介する。1-Iのウフタ遺跡は、昭和56年に熊本大学により発掘調査が行われており、縄文時代後期から弥生時代にかけての遺物・遺構が検出されている。1-IIのウフタII遺跡は、平成7年に県道拡張工事により発掘調査が実施された。面縄西洞式、嘉徳式、下山田タイプ、兼久式土器、類須恵器、貝等が出土している。1-IIIのウフタIII遺跡は農道工事中に発見され平成7年に発掘調査が行われた。縄文時代晩期から弥生時代前期にかけての遺構・遺物が検出されている。特筆すべき点として、主体部やベッド状遺構・出入り口部といった多重構造である石積み石囲い竪穴住居跡が発見されている。町は住居跡の価値を重視し、埋め戻して現地保存されている。

9の手広遺跡は、昭和60年に熊本大学により発掘調査が行われて、縄文時代後期から兼久式土器の時期にかけて7文化層が確認されている。第3文化層では石組み住居跡が2基検出されている。

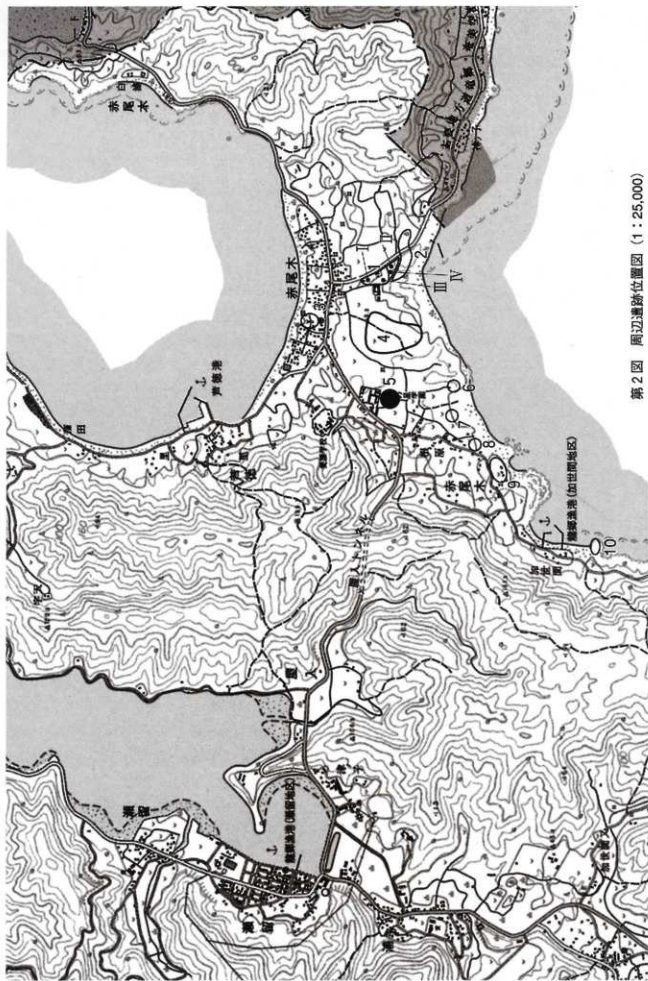
引用文献

青崎和憲「ウフタIII遺跡」龍郷町教育委員会埋蔵文化財発掘調査報告書（2）龍郷町教育委員会2002年

立神次郎「龍郷町の埋蔵文化財分布調査報告書」龍郷町文化財調査報告書 龍郷町教育委員会1986年

中山清美「ウフタII遺跡」龍郷町文化財調査報告書 龍郷町教育委員会1995年

中山清美「考古学上からみた龍郷町」『龍郷町誌歴史編』龍郷町教育委員会1988年



第2図 周辺避難位置図 (1 : 25,000)

番号	遺跡名	所在地	地形	時代	備考
1-I	ウフタ	龍郷町赤尾木1328-8ほか	砂丘	縄文・弥生	「ウフタ遺跡」(熊大活動報告12)
1-II	ウフタII	龍郷町赤尾木1328-8ほか	砂丘	縄文～古墳	「ウフタII遺跡」 (龍郷町文化財調査報告書)
1-III	ウフタIII	龍郷町赤尾木1328-8ほか	砂丘	縄文・弥生	「ウフタIII遺跡」 (龍郷町教育委員会埋蔵文化財 発掘調査報告書2)
1-IV	ウフタIV	龍郷町赤尾木1328-8ほか	砂丘	縄文～	
2	半川	龍郷町赤尾木1281	砂丘	縄文	
3	赤尾木保育所	龍郷町赤尾木	砂丘		
4	ウギヤウ	龍郷町赤尾木1339・1340	砂丘	縄文	
5	希望ノ星学園	龍郷町赤尾木	砂丘	古墳	
6	野原A	龍郷町赤尾木字野原1583ほか	砂丘	古墳～	砂採取進行中
7	野原B	龍郷町赤尾木字野原1584ほか	砂丘	古墳～	砂採取進行中
8	手広A	龍郷町手広1699-1	砂丘	古墳～	
9	手広	龍郷町赤尾木1730ほか	砂丘	縄文～古墳	昭和51・60年発掘調査(熊大)
10	コシマ	龍郷町加世間	低地	古代～近世	

第Ⅲ章 発掘調査の概要

第1節 発掘調査の方法

調査対象地内での北端、中央、南端の3地点に幅2m×長さ10mほどの確認トレンチを3本設定し状況によっては調査区を拡張し、遺物包含層の確認を行った。南側を1トレンチとして北へ順に2トレンチ、3トレンチとした。

遺跡は既に砂採取が行われており、遺物包含層であるⅢ層やⅥ層は調査区のほとんどで削平され、重機で現表土を除去するとⅦ層（マージ）や攪乱土が露出した。防風林に接する南西部の砂丘法面に遺物包含層の残存が確認できた。

調査対象面積に対して、遺物包含層が確認された範囲が狭かったため遺物量は少なく、パンケース2箱（約200点）であった。

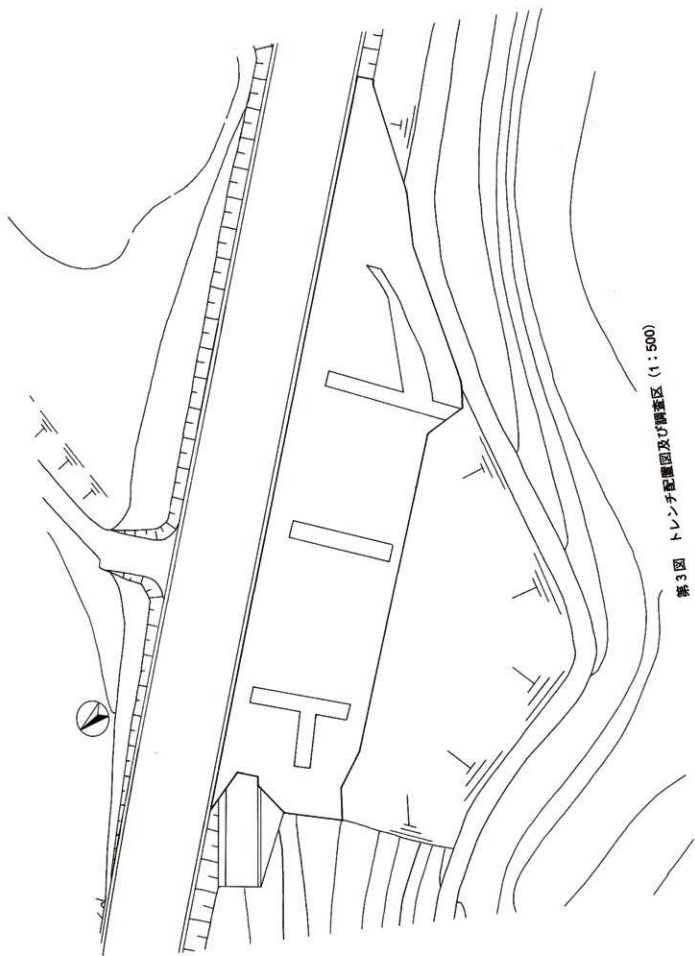
1トレンチ西端から南東方向にかけて、砂丘法面の遺物包含層を岩盤層上部まで掘り下げて調査した。Ⅲ層は夜光貝製品や碟等が出土したが、土器を供伴しなかったので時期は特定できなかった。Ⅵ層からは、条痕文式土器やチャートの剥片等が出土し下面から集石遺構1基を検出している。

第2節 遺跡の層序

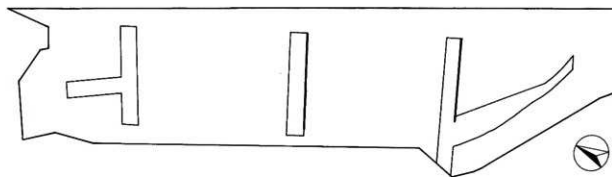
遺跡の基本層序については、調査区の附近一帯が大規模な砂丘地で海岸部から内陸部にかけて何度も砂丘形成があったことが砂丘法面の断面観察から窺われ、場所によってはⅦ層（マージ）がなく攪乱土や岩盤層が現れる所もあった。

以下に基本土層について説明する。

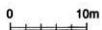
層 序	色 調 等	備 考
I層	表土	砂丘崩落を防ぐための盛土
II層	明黄色	厚い所は数メートルにもなる。砂層
III層	灰黒褐色	遺物包含層。一部しか残存しない。砂層
IV層	明黄色	砂層
V層	灰黒褐色	マイマイが多数含まれる。砂層
VI層	茶褐色	縄文時代の遺物包含層。一部しか残存しない。粘質土
VII層	赤褐色	マージ層。残存しない地点もある。
VIII層	黄褐色	VII層下部にブロック状に入る。一部しか残存しない。
IX層	黄桃色	岩盤層

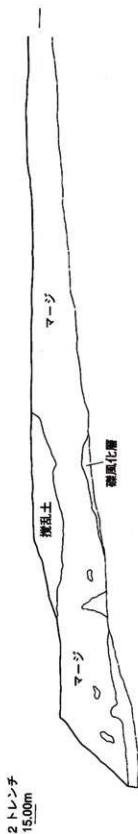
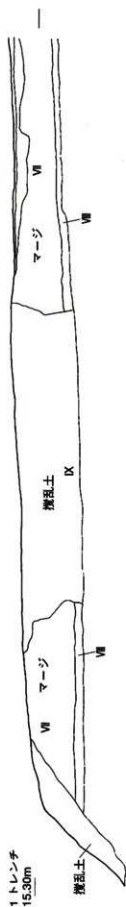


第3図 トレンチ配置図及び構築区 (1:500)



第4図 土層断面位置図 (1:500)





第5図 土層断面

第IV章 発掘調査の成果

第1節 縄文時代（VI層）の調査

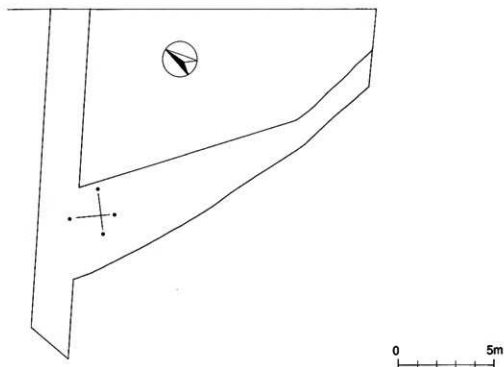
縄文時代の遺構・遺物は、VI層から検出・出土した。

1 遺構

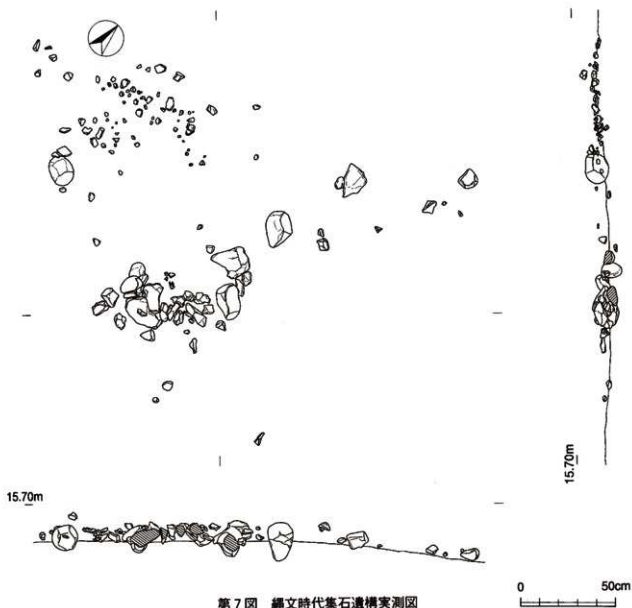
縄文時代の遺構として集石を1基検出した。1トレンチの調査拡張区のVI層下部より検出した。

【集石】（第7図）

200cm×250cmほどの範囲に散布し、112個の円礫・角礫で構成されている。掘り込みは確認されていない。被熱し破碎している礫もある。



第6図 縄文時代集石遺構位置図



第7図 縄文時代集石遺構実測図

2 出土遺物 第8図

(1) VI層出土遺物(土器)(1~7,9)

VI層出土の土器は、大半が無文で小破片であるため、分類できなかった。

1は、口縁部である。内外面に条痕を施す。外面は斜状に交差する。

2は、底部で丸底を呈する。

3は、底部で丸底を呈する。外面に条痕が施される。

4は、口縁部でやや外反する。外面に弱く条痕を施す。

5は、外面に沈線が入り、沈線の横にキザミ目が連続して施される。

6は、内外面に条痕が施される。

7は、外面に条痕が斜位に施される。

9は、内外面に条痕が施される。

(2) VI層出土遺物(石器)(10~12)

10は、チャート製の剥片である。

11は、チャート製の剥片である。左側面に微細な剥離が認められ、使用によるものかと思われる。

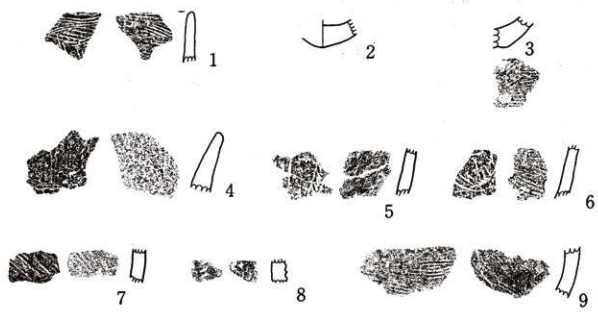
12は、チャート製の剥片である。

(3) III層出土遺物(貝製品)(13)

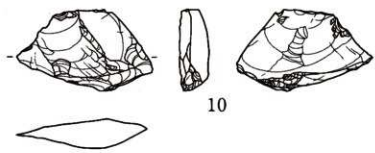
13は、夜光貝の製品である。螺殻を一部切り取り、真珠層を半分ほど出している。切断面を研磨して整形している。

(4) 時期不詳出土遺物(土器)(8)

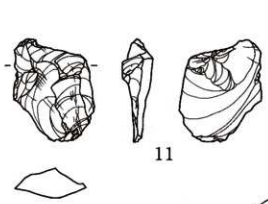
8は、県道沿いの断面下で見つかった物で出土層位を特定できなかった。外面に爪形のキザミ目が縦位に入る。焼成は良好である。



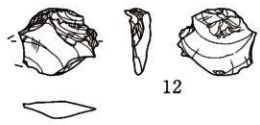
0 5cm



10



11



12

0 5cm



13

0 5cm

第8図 縄文時代・Ⅲ層・時期不詳出土遺物

番号	注記	出土区	遺構	層	標高	色調	胎土	施文等	備考
1	ウフタ70	1T調査拡張		VI	14.98	橙	長石、白粒	条痕	口縁部
2	ウフタ102	1T調査拡張		VI	15.25	茶褐	角閃石	条痕	底部
3	ウフタ76	1T調査拡張		VI	15.09	橙	白粒	条痕	底部
4	ウフタ集3	1T調査拡張	集石	VI	15.54	橙	角閃石、白粒	条痕	口縁部
5	ウフタ99	1T調査拡張		VI	15.37	橙	長石、金雲母、白粒	キザミ目、沈線	胴部
6	ウフタ191	1T調査拡張		VI	15.45	茶褐	長石、白粒	条痕	胴部
7	ウフタ116	1T調査拡張		VI	15.14	橙	長石、白粒	条痕	胴部
8						橙	白粒	キザミ目	胴部
9	ウフタ108	1T調査拡張		VI	15.58	橙	石英、白粒	条痕	胴部

番号	注記	層	標高	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	備考
10	103	VI	15.39	剥片	チャート	21.5	35.0	8.0	5.65	
11	161	VI	15.38	剥片	チャート	27.0	22.5	8.0	2.92	
12	132	VI	15.35	剥片	チャート	21.0	21.0	5.5	1.72	

番号	注記	層	標高	貝種	使用部位	長さ	幅	厚さ	重量	備考
13	198	Ⅲ	17.10	夜光貝	螺殻	32.0	48.0	3.7	10.12	

遺物観察表凡例

- 1 長さ、幅、厚さの単位はmmである。標高の単位は、mである。
- 2 石器・貝製品の重量の単位はgである。
- 3 色調は、「新版標準土色帖」2003による。

第V章 発掘調査のまとめ

本遺跡は、赤尾木地峡のやや南寄りの砂丘に立地して、同一砂丘上にあるウフタ遺跡群の一角をなしている。昭和56年に調査されたウフタ遺跡の成果から、縄文時代後期から弥生時代にかけての遺跡であることが判明している。

今回の調査地点は、平成7年に調査されたウフタⅡ遺跡の西寄りで砂丘中心部に近い地点であった。しかし、県道に面した断面には砂丘の下位にある頁岩の岩盤やマージ層が露出していたため、遺物包含層の発見は予想し難かった。

確認調査は、表土を除去して3本の確認トレンチを設定し行った。その結果、調査区内の南西部に砂丘が一部残存しており、砂丘形成以前と思われる茶褐色粘質土層（Ⅵ層）から、土器やチャート等が出土した。

そこで調査を全面調査に切替えて、残存する砂丘断面を精査して、工事で消失する法面部を基盤の岩盤やマージ層まで掘り下げた。2枚の褐色砂層（クロスナ層）が確認できたが、土器は出土しなかった。上位の褐色砂層（クロスナ層）からは、貝製品や焼けた礫が見つかり、下位の層も今回の調査では遺物は見つからなかったが、遺物包含層の可能性がある。今後ウフタ遺跡群で、砂丘全体を対象とした範囲確認調査を実施する際の課題としたい。

茶褐色粘質土層（Ⅵ層）から出土した土器は、磨耗がひどくて脆弱な物が多かった。無文な小片が目立つなかで、条痕文式土器が出土している。貝殻により施文されており、本町ではウフタ遺跡に類例がある。砂丘遺跡の多い笠利町では、国指定の宇宿貝塚近辺の宇宿高又遺跡や宇宿小学校構内遺跡、下山田遺跡・ケジ遺跡で出土している。出土点数が少ないために前述の遺跡との比較が難しいが、内外面に条痕を施している点や底部が尖底を呈するといった点等が共通している。1の口縁部は、条痕が斜状の曲線で施文されており、本町で初出の資料である。今後の調査による類例の増加を待ちたい。

石器類については、大半はチャートの剥片であった。石皿や磨・叩石の類は数点のみの出土であった。チャートは、ウフタⅢ遺跡で出土している青灰色や灰色に黒色や白色の縞が入る特徴の物が多く見られ、ウフタ遺跡群ではチャートの産地が共通していると思われる。

今回の調査で、ウフタ遺跡で出土した条痕文式土器の文化層が砂丘の南側にも存在していた事が判明したが、砂丘全体の詳細は未解明である。今後の調査次第では手広遺跡の成果と合わせて、奄美の古代史の解明につながるものとおもわれる。

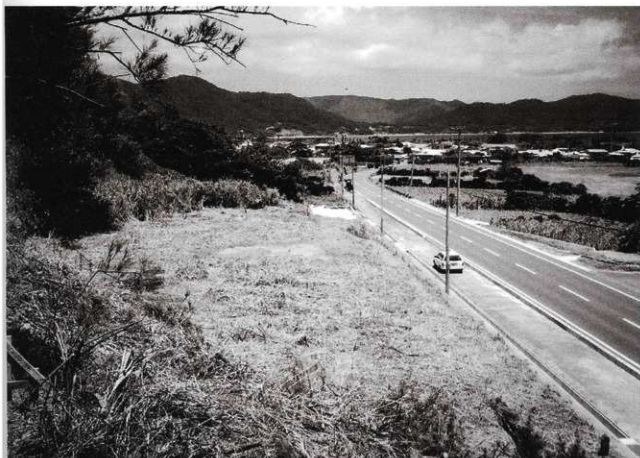
引用・参考文献

- 青崎和憲「ウフタⅢ遺跡」龍郷町教育委員会埋蔵文化財発掘調査報告書（2）龍郷町教育委員会2002年
熊本大学文学部考古学教室「ウフタ遺跡」1982年
熊本大学文学部考古学教室「手広遺跡（概報）」1986年
中山清美「宇宿小学校構内遺跡発掘調査概報」〔奄美考古第5号〕奄美考古学研究会2003年

圖 版



遺跡遠景



遺跡近景



1 トレンチ調査風景



1 トレンチ西端Ⅲ層遺物出土状況



1 トレンチⅢ・Ⅵ層遺物出土状況



1 トレンチⅥ層調査風景



2 トレンチ土層断面



2 トレンチ完掘



3 トレンチ完掘



1 トレンチ調査拡張区調査風景



1 トレンチ調査拡張区VI層遺物出土状況



1 トレンチ調査拡張区VI層チャート出土状況



チャート集中箇所



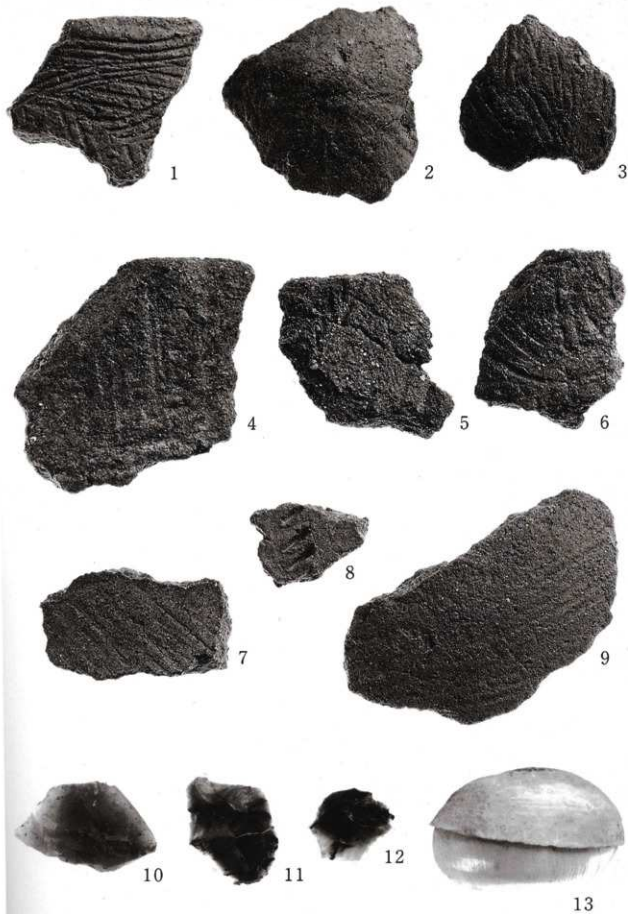
条痕文式土器出土状況



集石遺構検出状況



集石遺構



縄文時代・Ⅲ層・時期不詳出土遺物

龍郷町教育委員会歴史文化財発掘調査報告書(3)

ウフタⅣ遺跡

発行 2005年3月

編集 龍郷町教育委員会
〒894-0192 鹿児島県大島郡龍郷町浦110
TEL (0997) 62-3111

印刷 附電装共同印刷
〒894-0021 鹿児島県名瀬市伊津部町21-14
TEL (0997) 52-9899